

## 災害ボランティアとして活動するために

近年、各地で自然災害が起こっていることから、「災害ボランティアセンター」という言葉を耳にすることが多くなったのではないかと思います。

災害ボランティアセンターは、主に被災地(者)の支援ニーズとボランティアを結び付け、支援活動を効率的かつ円滑に進めることにより、被災地の復興に資することを目的としています。

今回は、災害ボランティアセンターの活動の流れを紹介します。



## シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」⑳

### 災害時に大学が果たす役割

平成30年7月豪雨では、北九州市にも甚大な被害が発生しました。そうした中で、北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターは通常のボランティア業務を拡大して災害ボランティアのための活動拠点を門司区に設置しました。そこで、本学では7月14日から16日までの3日間かけて開設された門司サテライトの運営支援に学生を派遣しました。門司サテライトでの学生達の活動はボランティア受付および保険の手続き・活動に必要な資機材の準備・サテライトの環境整備などです。簡単そうに見える作業でも、いかに効率よくボランティアを活動に送り出し、安全に活動を完了してもらうか工夫が必要となります。事前に被災者から聴き取ったニーズ票と活動内容を見比べ必要な資機材の数を調整したり、サテライト(特別養護老人ホーム敷地内の駐車場)にボランティアが自分たちでゴミを分別して捨てられるようにゴミ箱を設置したりと、必ずしも災害ボランティア拠点の設置に関するマニュアルに記載されていないことでも、自分たちでできることを考えて取り組みました。

実はこのような災害ボランティア拠点の運営支援は今回が初めてというわけではありません。2015年3月に北九州市と本学は防災人材の育成を目的に防災協定を締

北九州市立大学  
地域共生教育センター 特任教員

村江 史年 さん



結しました。そうした中で、本学にある地域共生教育センターに「災害時緊急支援チーム」を設置しました。本チームは被災地に社会福祉協議会(以下、社協と表記)によって設置される災害ボランティアセンター(以下、災害VCと表記)の運営支援に特化したチームで、これまでに社協や行政から依頼を受けて、熊本市災害VCや東峰村災害VC宝珠山サテライトの運営支援に尽力してきました。しかしながら、このような取組は大学独自でできるものではありません。社協が開催している災害VC設置運営訓練へ参加したり、社協の方を講師としてお招きして研修をいただいたりなど、日頃からの関係作りとトレーニングが必要となります。いざという時のために、日頃から災害に備えて尽力できる学生を育成しておくことは、その学生が卒業後に社会へと巣立ち、全国各地へと散らばっていった際にどこかで発生する災害に必ずや力を発揮してくれると信じています。そのためにも、今後も継続的に研修や社協の取組に参加をしていきたいと考えています。

## 被災地支援活動レポート

北九州市での被災地支援活動を行ってみて...

① 外山 ぶちか さん  
② 21歳 ③ 2回  
④ 西日本豪雨により初めて自然災害の脅威を体験し、他人事ではないという思いから災害ボランティアに参加しました。いつどこで何が起きてもおかしくない現状において、周囲の人との繋がりが、助け合いは不可欠であると感じました。



北九州市で被災者支援活動を行っていただいた2名の方に  
①お名前 ②年齢 ③北九州市での活動回数 ④北九州市での被災地支援活動を通じて感じたこと をコメントいただきました。

① 松尾 宏一 さん  
② 52歳 ③ 5回  
④ 最初に被災者の方々へお見舞い申し上げます。この活動を通し、絆の力が被災された方の心痛を僅かながらでも和らげる事を強く感じています。誰も一人じゃない、手を繋げば、一緒に前へ進めると今なら信じられます。



受講者募集

## 企業の社会貢献活動セミナーを開催します!!

このセミナーは、現在企業で社会貢献活動を担当されている方や、これから始めてみたいと興味を持っている方のさらなる活動の発展のため、また新たな貢献活動をしていくためのきっかけや方向性をみつける講座となっています。ぜひご参加ください。

- と き / 平成31年1月30日(水) 13:30~16:00
- と ころ / ウェルとばた12階H・I研修室(戸畑区汐井町1-6)
- 参加費 / 無料(定員20名)
- 申込み / 1月16日(水)までに電話(☎881-6321)でお申込下さい。

